

フレイル 選手・藤岡 浩介 選手の紹介



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号
2

フレイル 選手
DF 32歳
下呂市応援大使

ブラジルのサンパウロ州の中心部から約600km離れたブレジデンテ・フルデンテと言う地方で育った。二人兄弟で兄は地元で家業の農園や養豚業を行っているが、自分は16才でスカウトされてプロサッカークラブと契約。19才の時にサンパウロリーグで優勝を果たしたことは人生初のプロリーグでの優勝タイトルの獲得であり、この時の感激は今も鮮明に残っている。それを機会に海外チームからのスカウトによって、ポルトガルで6年、カザフスタンで1年、キプロスで1年活躍。ポルトガルでの6年間は母国ブラジルと同じポルトガル語で、真にファミリーとしての扱いを受け、最も思い出に残っている。カザフスタンは気温の高低差が激しく夏は40度になる時もあれば、冬になるとマイナス30度まで下がり、シーズンオフになるとすぐに帰国した。キプロスは地中海に浮かぶ島国で温暖な気候で素晴らしい国だったが、興味深い日本からのオファーを受け来日を決意した。

日本ではJ1の清水エスパスで2年、J1の湘南ベルマーレで1年、J2のV・ファーレン長崎で2年活躍。今シーズンからJ2昇格に向けて、全力で戦うためにFC岐阜に加入した。Jリーグでの一番印象深い試合は、3年前の湘南時代の浦和レッズとの対戦で、前半0対2でリードされている中、湘南の反撃ゴールがノーゴールの判定を受けて長時間に渡って試合が中断して大きな話題になった試合。この試合を最後まで諦めないで戦い、3対2の大逆転勝利したことは今でも心に残っている。

これからもFC岐阜では全員が絶対に諦めない気持ちで昇格を目指して一戦一戦を決勝戦のつもりで戦い続け、昇格を勝ち取りたいと思っている。

私生活では20才で結婚して以来、海外でもずっと奥様と一緒に生活で、今では7才と5才の息子たちと遊ぶのが一番の楽しみ。岐阜では息子たちが学ぶ環境も整っており、今では岐阜が一番住みこころが良い場所だと思っている。ホームタウン応援大使を担当する下呂市にはまだ行くことができていませんが、新型コロナウイルス感染拡大が収まれば家族で有名な温泉にも入りに行きたいと思っている。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号
38

ふじおか こうすけ
藤岡 浩介 選手
FW 27歳
養老町応援大使

山口県下関市出身で、両親と姉の4人家族で育った。小学生時代のサッカーチームの監督と宮崎日章学園中学の監督が友人同士であったご縁で、中学から高校まで宮崎県の日章学園で学びサッカー部で活躍した。卒業後J2のファジアーノ岡山に4年間在籍した後、JFLのテゲバジャーロ宮崎に加入し4年目には目標のJ3昇格を果たすことが出来た。5年目の昨シーズンは10得点を挙げる活躍をし、新たなチャレンジ先としてJ2昇格、更にはJ1昇格までの目標を掲げるFC岐阜で、自分の能力を最大限発揮し、更に磨きをかけたいと思い加入を決めた。かつてFC岐阜に所属しテゲバジャーロ宮崎に移籍した高地系治さんとは親交が続いており、岐阜に行くならどの辺りに住んだら良いかもアドバイスを頂いた。

岐阜に来て予想と違っていたのは、岐阜は思いの外、夏は暑くて冬は寒いことで、逆に良かったことはホームの試合でのファン・サポーターや観客数の多さ。岐阜に来て嬉しかったのはホームでの相模原戦で自分も得点して2対0で勝利し、多くの皆さんと喜びを分かち合えたことはとても印象に残っている。

第15節終了時点で8得点を挙げリーグトップですが、これからも得点を重ねてチームの勝利、そしてJ2昇格に貢献すべく頑張りますとの決意を語った。チームの連携プレーは段々と進化して関係性も良くなってきており、勝ちながらまとまりが一段と良くなってきている。

自分の性格はポジティブ・シンキングで、誰とでもスムーズなコミュニケーションを図ることをモットーにしている。

家族は奥様と3才と1才の息子2人で、近場のファミリーパークやショッピングセンターに出かけて休日は寛いでいる。ホームタウン応援大使をさせて頂いている養老町にはまだ行くことができていませんが、子供の成長と共に近いうちに足を伸ばしたいと思っている。また、ファン・サポーターの皆様ともお会いするのを楽しみにしている。